

【調 査 概 要】

学校生活に関する児童・生徒及び保護者アンケート回答結果

	<p>令和7年9月に実施した「学校生活に関するアンケート」の単純集計の結果、以下の傾向が見られた。本アンケートは、区立小・中学校に在籍する全児童・生徒及びその保護者を対象とした不登校に関する調査としては「足立区として初めての調査」となる。今後、クロス分析・学識経験者による分析を行っていくとともに、支援策の検討を行っていく。</p> <p>1 単純集計結果と今後の方針（案） (1) 単純集計結果から見えた傾向</p>						
内 容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">対象</th> <th style="width: 85%;">回答から見えた傾向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">児童 生徒</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ① <u>学校への安心感が低下（項番3（1））</u> 高学年になるにつれ、学校は行きたいところ、学校は安心できると思う割合は低下する。 ② <u>中学生の将来の不安は進学が最多（項番3（2））</u> 中学生は、小学校高学年に比べ将来への不安を抱えている割合が高く、進学や勉強への不安の割合が増加する。 ③ <u>不登校の理由は、どの世代も気持ちや体調が最多（項番3（3））</u> 次いで、勉強が理由であり、小学校高学年の割合が一番高い。 ④ <u>高学年になるほど他者の助けを求める割合が減少（項番3（4））</u> 「そっとしてほしい、してほしいことはない」と考える割合が増加する一方、小学校低学年は友だちや家族の声掛けを求めている。 ⑤ <u>低学年での気付き、支援が重要（項番3（5）、（6））</u> 登校できるようになった児童・生徒は、低学年において勉強や人間関係が改善されると、学校に登校できるようになる割合が高い。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">保護者</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ① <u>学校生活は友達が重要で、多様な経験を得る場（項番4（1））</u> 友人関係や勉強を重要と捉えており、併せて学校での多様な経験や社会ルールを学んでほしいと考える割合が高い。 ② <u>保護者が考える不登校の主な理由は、子自身の体調（項番4（2））</u> そのほか学校での過ごしやすさ、人間関係が理由で、子が学校に行きたくないと考えている保護者の割合が高い。 ③ <u>求める支援は子の居場所や学びの場、進路に関する情報（項番4（3））</u> 子への支援は、オンライン授業の受けやすさ、学校内外の居場所を求める割合が高い。保護者への支援は、進路に関する情報提供、教員が先入観を持たずに話を聞いて欲しい割合が高い。 ④ <u>保護者が考える、子が登校できるようになるために必要な支援は人的サポート（項番4（4）、（5））</u> 登校できるようになった子を持つ保護者の回答では、登校できるようになった理由として、主に人間関係の改善や家族の応援であると考えている。また、登校できるようになった後のサポートとして、先生からの声掛けいつでも相談できる体制等、子に寄り添った支援を求めている割合が高い。 </td> </tr> </tbody> </table>	対象	回答から見えた傾向	児童 生徒	<ul style="list-style-type: none"> ① <u>学校への安心感が低下（項番3（1））</u> 高学年になるにつれ、学校は行きたいところ、学校は安心できると思う割合は低下する。 ② <u>中学生の将来の不安は進学が最多（項番3（2））</u> 中学生は、小学校高学年に比べ将来への不安を抱えている割合が高く、進学や勉強への不安の割合が増加する。 ③ <u>不登校の理由は、どの世代も気持ちや体調が最多（項番3（3））</u> 次いで、勉強が理由であり、小学校高学年の割合が一番高い。 ④ <u>高学年になるほど他者の助けを求める割合が減少（項番3（4））</u> 「そっとしてほしい、してほしいことはない」と考える割合が増加する一方、小学校低学年は友だちや家族の声掛けを求めている。 ⑤ <u>低学年での気付き、支援が重要（項番3（5）、（6））</u> 登校できるようになった児童・生徒は、低学年において勉強や人間関係が改善されると、学校に登校できるようになる割合が高い。 	保護者	<ul style="list-style-type: none"> ① <u>学校生活は友達が重要で、多様な経験を得る場（項番4（1））</u> 友人関係や勉強を重要と捉えており、併せて学校での多様な経験や社会ルールを学んでほしいと考える割合が高い。 ② <u>保護者が考える不登校の主な理由は、子自身の体調（項番4（2））</u> そのほか学校での過ごしやすさ、人間関係が理由で、子が学校に行きたくないと考えている保護者の割合が高い。 ③ <u>求める支援は子の居場所や学びの場、進路に関する情報（項番4（3））</u> 子への支援は、オンライン授業の受けやすさ、学校内外の居場所を求める割合が高い。保護者への支援は、進路に関する情報提供、教員が先入観を持たずに話を聞いて欲しい割合が高い。 ④ <u>保護者が考える、子が登校できるようになるために必要な支援は人的サポート（項番4（4）、（5））</u> 登校できるようになった子を持つ保護者の回答では、登校できるようになった理由として、主に人間関係の改善や家族の応援であると考えている。また、登校できるようになった後のサポートとして、先生からの声掛けいつでも相談できる体制等、子に寄り添った支援を求めている割合が高い。
対象	回答から見えた傾向						
児童 生徒	<ul style="list-style-type: none"> ① <u>学校への安心感が低下（項番3（1））</u> 高学年になるにつれ、学校は行きたいところ、学校は安心できると思う割合は低下する。 ② <u>中学生の将来の不安は進学が最多（項番3（2））</u> 中学生は、小学校高学年に比べ将来への不安を抱えている割合が高く、進学や勉強への不安の割合が増加する。 ③ <u>不登校の理由は、どの世代も気持ちや体調が最多（項番3（3））</u> 次いで、勉強が理由であり、小学校高学年の割合が一番高い。 ④ <u>高学年になるほど他者の助けを求める割合が減少（項番3（4））</u> 「そっとしてほしい、してほしいことはない」と考える割合が増加する一方、小学校低学年は友だちや家族の声掛けを求めている。 ⑤ <u>低学年での気付き、支援が重要（項番3（5）、（6））</u> 登校できるようになった児童・生徒は、低学年において勉強や人間関係が改善されると、学校に登校できるようになる割合が高い。 						
保護者	<ul style="list-style-type: none"> ① <u>学校生活は友達が重要で、多様な経験を得る場（項番4（1））</u> 友人関係や勉強を重要と捉えており、併せて学校での多様な経験や社会ルールを学んでほしいと考える割合が高い。 ② <u>保護者が考える不登校の主な理由は、子自身の体調（項番4（2））</u> そのほか学校での過ごしやすさ、人間関係が理由で、子が学校に行きたくないと考えている保護者の割合が高い。 ③ <u>求める支援は子の居場所や学びの場、進路に関する情報（項番4（3））</u> 子への支援は、オンライン授業の受けやすさ、学校内外の居場所を求める割合が高い。保護者への支援は、進路に関する情報提供、教員が先入観を持たずに話を聞いて欲しい割合が高い。 ④ <u>保護者が考える、子が登校できるようになるために必要な支援は人的サポート（項番4（4）、（5））</u> 登校できるようになった子を持つ保護者の回答では、登校できるようになった理由として、主に人間関係の改善や家族の応援であると考えている。また、登校できるようになった後のサポートとして、先生からの声掛けいつでも相談できる体制等、子に寄り添った支援を求めている割合が高い。 						

(2) 今後の方針 (案)

以下の方針のもと今後学識経験者を交えてクロス集計結果を分析し、具体的な施策を検討していく。

今後の方針 (案)	現時点 (単純分析) における 令和 8 年度の取組想定
<p>ア 小学校低学年時からの取組の強化 教員、保護者、その他学校関係者による小学校低学年時からのフォローアップ体制を充実させ、子どもたちが安心して学校へ行ける・個々の状況に応じて学べる環境作りをハード面、ソフト面の両面から改善していく。</p>	<p>① 学校と連携し、まずは校内別室 (居場所) 及び登校サポーターの確保を強化しつつ、その他の居場所の確保も検討 ② 担任、養護教諭及びスクールカウンセラーが連携し、登校に不安を抱える児童・生徒へ早期に対応する取組を強化 ③ オンライン授業の負担を軽減できるよう学校に実施例を示し、子どもがオンライン授業を受けやすい環境を強化</p>
<p>イ 将来への不安の解消 進路/進学に関する情報提供や学ぶ意欲を醸成する仕組みを整え、自らの将来の不安を少しでも払拭できるよう取組む。</p>	<p>① 不登校生徒の進路/進学情報をまとめ、中学校及び保護者に情報提供 ② 民間事業者と連携して、学ぶ意欲を醸成する仕組みの導入</p>
<p>ウ 学習進度に応じて学べる環境の整備 勉強の仕方が分からないことが、特に中学生の不登校の理由の割合として高かったため、不登校又は不登校傾向にある生徒を対象に、学習進度に応じて学べる環境を整えていく。</p>	<p>中学校へのチャレンジクラスの設置</p>

2 回答数、回答率等

(1) 回答数、回答率

対象	母数	回答数	回答率
小学校	28,706人	24,860	86.6%
中学校	13,343人	11,244	84.2%
保護者	30,213世帯	12,670	41.9%

※ 母数はいずれも 9/1 現在

※ 無効回答があったため、無効回答は除外した。

(2) アンケート実施方法

インターネット回答方式で実施

(3) アンケート実施期間

児童・生徒も令和 7 年 9 月 8 日 (月) ~ 9 月 30 日 (火) を実施期間として予定していたが、回答数、回答率が低い学校が複数あったため、実施期間を 1 週間延長した。

- | | |
|--|---|
| | <p>ア 児童・生徒
令和7年9月8日（月）～10月7日（火）</p> <p>イ 保護者
令和7年9月8日（月）～9月30日（火）</p> |
|--|---|